

Par terre について— à terre との比較を中心に

本間幸代

(国際学院埼玉短期大学非常勤講師)

前置詞句 *par terre* は前置詞 *par* の一用法として考えられる。前置詞 *par* と言えば、*passer par Dijon pour aller à Paris* や *envoyer un document par fax* など、その属詞が経路・媒介を表すというイメージが一般的に強いが、*s'asseoir par terre* や *mettre qch. par terre* などの表現の場合、*terre* が経路・媒介を表しているとは考え難い。果たして、属詞が経路・媒介を表す *par* の用法と *par terre* との間に共通性はあるのだろうか。

また、前置詞句 *par terre* はしばしば *à terre* との比較の対象とされてきたが、両者の使い分けについては、今だ説得力のある説明はなされていない。例えば M.Grevisse(1969 : 915)は、ごく一部の例を除き、両前置詞句間の使い分けに制約はないとしている。しかし実際には、下記のように *à terre* と *par terre* は入れ替えが不可能または不自然な場合が多数見られ、Grevisse の説明は信憑性が低いことが分かる。

(1) *En cas de tremblement de terre, mettez-vous (à / ??par) terre.*

(2) « *On va vous arrêter, mettez-vous (à / ??par terre) !* »

(3) *Range tes chaussettes qui traînent (*à / par) terre.*

(4) *Attention ! Tu vas tomber (*à / par) terre !*

これに対し E. Littré (M.Grevisse [Ibid. : 915] による引用) は、*à terre* と *par terre* には違いがあるという立場を取り、次のように述べている。

« *A terre se dit de ce qui tombe ou de ce qui est sur le sol, à nos pieds, avec cette idée que ce qui tombe ne touchait pas le sol auparavant. Par terre se dit dans le même sens, mais avec cette idée que ce qui tombe touchait le sol auparavant.* »

しかし、例えばリンゴが木から地面に落ちるのを見て、文脈によっては *tomber à terre* と *tomber par terre* のどちらの表現も可能である。人が地面に倒れる場合についても同様、文脈次第で上記どちらの表現も使えるのである。よって、地面に落ちるものあるいは倒れるものが既に地面に接触していたかどうかの違いではないことが分かる。

その他、G. Gougenheim(1939 : 303)のように、*à terre* と *par terre* の違いは言語使用域 (registre) の差異に起因するとする説明もある。具体的には、*à terre* は高尚な文体において用いられ、*par terre* は大衆的でくだけた文体において使われるというような説明である。しかし、*à terre* はかなりくだけた文体で書かれたテキストの中でも数多く見受けられ、また *par terre* も文学作品の中で使われている例が複数あることからすると、言語使用域 (registre) の差異によっては説明がつかないということになる。

本発表では、まず属詞が経路・媒介を表していると解釈できる用法をはじめとする *par* の様々な用法と *par terre* との間に共通の特徴が観察できることを明らかにし、次にその特徴が *par terre* と *à terre* との比較においても現れていることを示す。